

外国人カジノ利用率の考察

カジノができたらどの位の人が来場してくれるか試算する必要があります。
IR 導入可能性調査報告書（以下報告書と表現します）では次の客層を想定しています。

- ・外国人の 138%
千葉市、習志野市、市原市、八千代市にくる外国人
- ・ギャンブル愛好家（事実上パチンコ愛好家）の 10%
幕張メッセ、野球場とこれ以外の目的で千葉市内に来る日本人
- ・お台場にカジノができたなら行くかとの調査を利用
千葉市内に来る日本人（ギャンブル愛好家を除く）の 16.7%
（この分は、ここでは考察してません。）

外国人が 1.38 回カジノへ行くとは幕張新都心に限ってではありません。日本全国を訪れる外国人観光客全員が適当な場所にカジノがあれば 1.38 回行くとの設定です。

例えば、最近話題になってる、銀座や、秋葉原で電気炊飯器や洗浄付き便座を「爆買」いする中国人はお台場にカジノが出来れば全員が 1.38 回行くこととなります。また、桜の花見でくる外国人も同様です。金持ちか、それなりの人か、貧乏人か国別も関係ありませんとにかく 1.38 回です。さらに、客単価（負け金）1 回で 26,000 円としていますので、ひとり当たり 35,880 円(=26,000 円×1.38) 負けていくこととなります。

日本人も海外に行けばその国では外国人です。日本ではギャンブルをやらない人も、海外では旅行先にカジノがあれば全員が 1.38 回カジノに行かなければなりません。

どうしてこうなっかたは「ギャンブル愛好家」について先に考えると分かり易いので「ギャンブル愛好家」を先に論じます。

パチンコを年 1 回以上する人は 970 万人で、平均では 27.5 回です。（レジャー白書）
パチンコ人口の比率 970 万人／約 1 億人（成人人口） = 約 10 %

報告書のギャンブル愛好家の 10 %はここからきてます。

問題なのは「パチンコを年 1 回以上する人は 970 万人で、平均では 27.5 回です」です。約 1 千万人が 27.5 回行けば延べ人数は 2 億 7,500 万「人・回」です。1 億人で割れば 2.75 回です。報告書の外国人のカジノ利用に対する解釈に合わせれば日本人全員が年 2.75 回 (275%) 行くとしなければなりません。

これでは例えば、野球場に行く人の 10%でなく全員がカジノに行くことにしなければなりません。客単価（負け金）1 回で 26,000 円でさらに、日本人は入場料 1 万円です。野球場入場料以外に 36,000 (=26,000+10,000) を持って行かなければなりません。

今後、分かり易く下記の表現を使用します。

「人・回」：1 人でギャンブルに 10 回行けば 10 人で数えます。（延べ人数）

「人」：1 人でギャンブルに 1 回行っても 10 回行っても 1 人で数えます。

パチンコに関する「レジャー白書」ではこの表現を使用します。

例えば登山に関する件でも、年 1 回以上登山に行く人は XXX 万人といった具合です。

それでは、報告書では外国人のカジノ利用率はどうして計算してるのでしょうか。シンガポールでの外国人のカジノ利用率を計算して幕張新都心のカジノにそのまま持ってきてます。シンガポールのカジノは中国人裕福層で成り立っていると言われてます。幕張新都心にはそうしたことは一切考慮しないでそのまま、客単価（負け金）26,000円を適用してます。

報告書の112ページに計算があります。必要な所は以下の通りです。

引用

- ・シンガポールの年間外国人観光客 1,164万人（2010年）
- ・外国人カジノ利用者数 1,605万「人・回」（延べ人数）
（注：カジノ利用者数は非公開とされてるので無理な推計をしています。）
- ・外国人カジノ利用者率 1.35（=1,605万人／1,164万人）

引用終わり

この数字はパチコに1億人が2.75回に行くとする考え方です。延べ数から計算されてます。

即ち、外国人は「人・回」で日本人は「人」で数えてることになります。

それでは、外国人を「人」で計算するにはどうしたら良いのか考えてみます。

$$\text{外国人カジノ利用者数 } 1,605 \text{ 万「人・回」} \\ = A \text{（年1回以上カジノに行く人）} \times B \text{（平均回数）}$$

A（パチコでは970万人）かB（パチコでは27.5）が分かれば

$$\text{外国人カジノ利用者率} = A / \text{シンガポールの年間外国人観光客 } 1,164 \text{ 万「人」}$$

でパチコの10%に相当する利用者率が分かります。

しかし、A,Bは非公開とされますので「**大胆な推計**」をしてみます。

＜ a

[https://www.stb.gov.sg/statistics-and-market-insights/marketstatistics/tourism%202013%20roundup%20presentation%20\(pdf\).pdf](https://www.stb.gov.sg/statistics-and-market-insights/marketstatistics/tourism%202013%20roundup%20presentation%20(pdf).pdf) シンガポールの観光に関するレポートの12ページから観光客数を引用します。

シンガポール全体の観光客からカジノ利用者の割合は大まかには計算できます。まず、カジノができる2010年前の2006-2009年の平均観光客数は約1,000万人です。カジノができてから増えたのがカジノ客とすれば大まかな数字は計算できます。

2010年は1,160万人 増えた人は160万人 増えた人の割合 160/1,000=0.138

2011年は1,320万人 増えた人は320万人 増えた人の割合 320/1,000=0.32

売り上げは2011年を採用してるので0.32位で良いと考えられます。

即ち現在千葉市近郊に来てる外国人観光客数からカジノができたらどの位増えるかを推計することになります。そして増えた分がカジノへ行くとします。

報告書の113ページの表では（新規開発型）

2021年推定幕張新都心への外国人入り込み数 105万人

2021年推定幕張新都心以外への外国人入り込み数 73万人
計178万人

これから 178万人 × 0.32 = 57万人
報告書では 178万人 × 1.38 = 246万人

また、報告書の113ページの表<日本人・外国人別カジノ利用者数> (新規開発型)

	日本人	外国人	合計	万人	外国人割合	%	収入	億円
当推定	308	57	365		16		949	
報告書	308	246	692		36	1,798		

外国人割合と収入の項は追加しました。

ここでの推計は合理的と考えてますが、それはさて置きます。
問題は外国人は全員が1.38回、日本人は10人に1人が来場とした理由です。
市側は1.38回は「一定の条件設定」だとしてその理由は現在明かしてません。
「一定の条件設定」は市長が議会答弁でも言ってます。

報告書の113ページに興味深い一文があります。

【考察】

新規開発型ではマリーナ・ベイ・サンズと同規模(15,000㎡)のカジノを想定している。上記推計では利用者数が651(万人)で、マリーナ・ベイ・サンズの900(万人)の約70%という結果になった。

今回は日本人のカジノ利用者比率を25% (ギャンブル愛好家が10%、その他が15%) としたが、これをシンガポール並みの37.6% (2011年利用者数195万人 / 518万人(人口)で試算すると、新規開発型の日本人カジノ利用者数は669(万人)となり、外国人利用者と合わせると916(万人)になる。

その場合の新規開発型のカジノ収入は、2,380(億円)となり、マリーナ・ベイ・サンズと同等の水準になる。IR基本構想を策定する上では、規模ももちろんのことであるが、日本人の利用をどこまで見込むか、またそれを実現するための具体策(入場規制の在り方等)を検討することが必要となる。

前半の強調部分「ギャンブル愛好家が10%、その他が15%」は「人」です。後半の強調部分「195万人 / 518万人(人口)」の195万人は延べ人数で「人・回」です。結局報告書では「人」と「人・回」二つの「概念」があること自体知らないで作られていると考えられます。従って「外国人の1.38回」には何ら違和感なかったらうと、覗えます。

利用率を「人」で考える限り母数を越えることはありません。パチンコを年1回以上やる人は約1,000万人で10%です。仮に成人全員1億人(母数)がパチンコに行くとすれば100%です。100%以上にはなりません。

注意

「大胆な推計」は報告書の考え方をすれば、こうなるだろうとしてるだけです。

カジノを日本に設置するとした時外国人(中国富裕層)をどう取り込むかが重要な問題とされてます。「大胆な推計」が日本でカジノを設置すれば外国人はこの位くると私が主張してるわけではありません。